

日本のエネルギー問題 と ゲーム論的思考

2013年6月
内閣官房参与
浜田宏一

Reservations

- 以下は私個人の見解であり、政府の見解とはまったく独立のものである。
- 初めての発表であり、データ、政策的考察、政治的考察によって裏打ちされなければならない。

世界のエネルギー情勢の変化

- アラブ諸国に生殺与奪の権を握られていた日本
- そこでは以下の議論はまったくのタブー

世界の石油価格政策

ヨーロッパ 非常に高い

日本 高い。

アメリカは高くなりつつあるが依然として低い。

国内の石油生産の及ぼす政治的結果。

本日の主要な主張

- 産油国だけでなく、消費国も戦略的 (Strategic) な対応するようにして、産油国の独占戦略に対応すべきである。
- 石油に対する関税、消費税、課税等をうまく組み合わせると、かえって国のエネルギーに対する全支出は減る。

図とモデルによる説明

- OPEC結成時まで、国際石油資本が需要独占者として行動。
- その後、産油国が独占生産者、寡占生産者として行動。
- ここで提唱するのは、日本が寡占消費国として行動。
- その結果、価格は相互独(寡)占価格となり、構想市場価格に近くなる。